

コリント人への手紙— 5章 1-13 教会規律の必要性

今日から、第一コリント人への手紙の5章に入り、新しい内容に入ります。5章と6章は、いずれも教会における性的不道徳の問題を中心的に語っています。今日は第一コリント他人への手紙5章にある13節を全て取り上げますが、これから数回の説教を通して、この5章から始まって6章の終わりまで続くパウロの思想の流れを明らかにしたいと思います。この節を始めるにあたって、教会の不一致が核心的な問題であり、この章でパウロが扱っている問題の一つ一つがその教会不一致に寄与していることを心に留めておいてください。まず、5:1-2を読みましょう。この章では、教会の次の問題が紹介されています。「**現に聞くところによれば、あなたがたの間には淫らな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどの淫らな行いで、父の妻を妻にしている者がいるとのことです。² それなのに、あなたがたは思い上がっています。むしろ、悲しんで、そのような行いをしている者を、自分たちの中から取り除くべきではなかったのですか。**」

ここで、パウロが誰に向かって話しているのかを正確に理解しておくことが大切です。パウロは個人個人の罪人に向かって話しているわけではありません。一度も罪を犯している個人には声をかけていません。この指示は、教会全体に対してパウロが出しているものなのです。これは重要なことです。罪は個人だけの問題ではありません。私の罪もあなたの罪も教会全体に影響します。また、一部の非常に深刻な罪が公然に犯され、もし罪を犯している人が悔い改めない時は、教会はその罪に対処しなければなりません。パウロは、この罪に対して最も厳しい方法で対処しようと、非常に直接的な言葉で語っています。2節で、「**このような行いをしている者を、自分たちの中から取り除くべきではなかったのですか。**」と述べています。その人のために祈れとか、どう対処するか議論しろとか、その人が悔い改めに至るように祈れとか、言っているわけではありません。もっと直接的に「追い出せ!」と言っているのです。では、パウロが教会のメンバーとしてその人を破門する、あるいは排除するように明確に命令するほど、教会が非難すべき罪とは何なのでしょう。それは性的不道徳であり、一般的には結婚していない男女が性的関係を持つことです。しかし、ここで述べられている罪とは、結婚していない男女が性的関係を持ったというだけでなく、父親の妻と関係を持ったという罪でした。

この関係は実の母親ではなく継母との関係ですが、聖書や当時のローマ社会では、近親相姦とみなされた関係です。そして、当時のローマ社会は、結婚以外の性交渉や姦通、売春には寛容な社会でしたが、そのような社会においても、近親相姦はやはり言語道断とされ、処罰の対象と考えられていました。つまりパウロは、異教徒の間でも許されないような行為であったことを指摘しているのです。周囲の社会がどう考えているかということ以上に重要だったのは、書かれた聖典として彼らが持っていた旧約聖書が、この罪を明確に非難していた点です。申命記27章20節には「**父の妻と寝る者は、自分の父の恥をさらすのであるから、のろわれる。**」とあります。しかし、パウロがここで取り上げている問題は、実は単にこの男の罪ではありません。パウロが聖霊を通して6章で明らかにするように、この男は救われていると自ら証しながら、実際には救われておらず、その結果として救われていない人と同じ行動をとっている点が問題なのです。

第一コリント人への手紙6章9節の後半から10節までを見てみましょう。「**思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしめる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。**」もし、人が確信と悔い改めを示さず、執拗に不道徳な生活を送り続けているなら、聖書は、あなたは神の国に属さない、つまり救われていないと述べています。クリスチャンは、罪悪感もなく執拗に不道徳な生き方をすることはありませんし、することもできません。だから、パウロは第一コリント6章の11節で、「**あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。**」と続けているのです。この男の姿はあなたの過去の姿なのです。もちろん、私たちは皆、現在進行形の罪と戦っていますが、信仰者にとっては、その罪は、それが罪であるということの確信と罪悪感を伴うものなのです。パウロが、この人の罪を知っていたことを考えると、その人は何も恥じらうことなく、悔い改めもなく、その罪を犯し続けていたのだと考えられます。このような状態は、もはや個人の罪ではなく、この人の罪を黙認しながら、クリスチャンであることを誇っている教会全体の罪なのです。

教会はこの罪に対して嘆くべきなのに、それを嘆かない教会の傲慢さをパウロは非難しています。罪の存在は、キリストの体である教会に悲しみをもたらすものでなければなりません。パウロは、この教会のクリスチャンたちがこの男の罪を誇りに思っていると言っているではありません。誰もこの男の罪深い行動を支持しているわけではありません。しかし、ここで述べられている傲慢さは、彼らがその男の罪に対して何もしなかったという点にあります。おそらく、この男は町の中の名士であったために、教会はその罪を放置したのかもしれませんが。また、この男が罪を犯していることが公然の事実であり、ローマの法律でも禁止されていたことを考えると、彼はその当時の社会で影響力を持っていたのかもしれませんが、教会に多額の寄付をしていたのかもしれませんが。すなわち、教会としては、この男の罪を容認はできないと感じていた一方で、この男を教会の一員とすることに何らかの誇りを感じていたということを示しているのです。

しかし、パウロはここで一切の妥協を許さない命令をここでしています。パウロがこの男についてどのように考えているかを、3-5節で見ていきましょう。「**3 私は、からだは離れていても霊においてはそこにいて、実際にそこにいる者のように、そのような行いをした者をすでにさばきました。4 すなわち、あなたがたと、私の霊が、私たちの主イエスの名によって、しかも私たちの主イエスの御力とともに集まり、5 そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それによって彼の霊が主の日に救われるためです。**」パウロがこの男を教会から追い出す必要性をどれほど真剣に感じていたかを見逃す人がいるとすれば、パウロは5節でさらに力強く次のように言っています。「**そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それによって彼の霊が主の日に救われるためです。**」と。パウロはここでこの男の人生におけるサタンの働きを、彼が耐えることになる肉体的な苦しみと結びつけています。パウロのこの言葉に関しては、聖書学者の間で、見解が分かれるところではあります。一部の研究者は、パウロが教会から破門されたら、その男は呪われて死ぬと言っているのだという見解を示しています。しかし、このような見解は、この箇所全体を見渡したときに、最良の解釈ではないと思われます。誰かをサタンに引き渡すということは、その人を教会から追い出し、私たちが救われる以前にいたサタンの勢力圏に引き戻すということです。つまり神の働きがある教会の外に追いやることを意味します。基本的には、2節で「**取り除くべきではなかったのですか**」、また、13節で「**あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい**」と隠喩的に言ったことを、再度この箇所ですり具体的に繰り返しているのです。つまり、信仰の共同体からその男を排除するのです。ここで、もう一つ、やや小さい問題ですが、応用できるポイントを示したいと思います。それは、この時点で、すでに教会に正式な教会員に関する理解がなければ、この教会から誰かを排除するという考え方は意味をなさないという点です。教会には正式な教会員、メンバーシップがないことを主張する人はたくさんいますが、それがなければ、教会規律、すなわちこの破門に関するこれらの箇所は意味をなしません。誰かを教会から追い出すには、ただ集会に参加するだけでなく、何らかの正式な教会員になる方法がなければなりません。クリスチャンにとって、特定の教会の教会員になること、地元のキリストの体に参加することは、してもしなくても良いことではないのです。これは全てのクリスチャンがすべきことなのです。

また、ここで注目すべきは、パウロが使徒としての権威を利用することに躊躇していない点です。彼は使徒としての権威を使って、彼らが行動をとるように命じているのです。このことだけでも、彼のこの状況に対する真剣さがうかがえます。彼は霊において彼らと共にいるのであって、超自然的に体外離脱の体験によってこの教会に加わっているわけではありません。しかし、彼は常に彼らの霊的な健全さ、ウェルビーイングに目を向け、彼らが霊的に成長できるように心を砕いています。パウロの言葉は非常に厳しいですが、その焦点は二つの部分にあります。一つ目は、すでにここまでの節でほめかされていますが、6節から8節でよりはっきりと見ることができます。「**6 あなたがたが誇っているのは、良くないことです。わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませることを、あなたがたは知らないのですか。7 新しいこねた粉のままでいられるように、古いパン種をすっかり取り除きなさい。あなたがたは種なしパンなのですから。私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。8 ですから、古いパン種を用いたり、悪意と邪悪のパン種を用いたりしないで、誠実と真実の種なしパンで祭りをしようではありませんか。**」パウロは、キリストのからだの中の罪について、「パン種（イースト）」という概念を用いています。一塊のパンを膨らすのに、わずかなパン種、つまり生地の中のわずかな膨張剤があるだけで十分なのです。教会で対処されない小さな罪は、キリストの

体全体に影響を及ぼします。罪がないこと、つまり聖さを表すものとして、「パン種」なしのパンを比喻として使っているのです。自分が罪人であり、クリスチャンでないことを行動で証明する人とは違って、私たちクリスチャンは本当に罪のない人、種なしのパンだ、と言っているのです。なぜ、このようなパンの例を使ったのでしょうか。「私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。」と述べているところがヒントです。ユダヤ人の過越の祭りが、ここで言及されています。ユダヤ人の家庭では、過越の祭りをを行う前に、子羊を殺して食べます。同時に、「パン種（イースト）」を家から取り除き、この過越の祭りの食事と一緒に食べるパンは、「パン種」なしのパンにしたのです。

これは、モーセのもとでファラオがヘブライ人の出国を許す前に、エジプトへの最後の災いの際に、過越の祭の一部として神から命じられたものです。皆さんもご存知とは思いますが、過越の小羊の血を戸柱に塗っていた家には、死の天使は来ず、長男は死なずにすみました。しかし、血のない家には、死の天使がやってきて、長男は死んでしまいました。このことによって、神は、単にイスラエルの民がエジプトの圧政から解放されたというだけでなく、もっと大きな意味を示しました。これは救いの条件を描いているのです。パン種がないことで示される神聖さ、さらに言えば、その家の人のために他のものが血を流すことによってのみ得られる神聖さが、救いの条件なのです。過越の祭りの場合、それは子羊の血でした。その子羊は、本当の過越の子羊であるイエス・キリストを指し示しています。パウロが第一コリント人への手紙で語ったように、彼が人生を通して教会で行った活動は、イエス・キリストとその十字架の上での死がなければ、決してなし得なかったことでした。キリストの中にいること、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れることは、イエス・キリストが私たちの罪のために死んでくださった、私たちの過越の小羊であることを受け入れることなのです。そして、それを受け入れることを通じて、私たちはキリストの神聖さと義を与えられるのです。パウロは、私たちが聖なるものとなることについて、次のように語っています。ローマ人への手紙4章5節「しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。」クリスチャンになるということは、聖なるものとされることであり、パウロの例で言えば、パン種なしのパンになるということです。ですから、教会はイエス・キリストによって聖なるものとされた人間で構成されているはずで、よって、教会全体が聖なるものとなるはずなのです。第一コリント人への手紙3章17節を振り返ってみましょう。パウロは教会を神殿に見立てて、「神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。」と語っています。つまり、パウロが注目しているのは、罪によって教会全体にもたらされるダメージなのです。教会規律は、個人のためではなく、教会を罪から浄化するために存在しているものであることをパウロは示しているのです。

しかし、個人にも焦点が当てられています。5節の終わり方に注目してください。「そのような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それによって彼の霊が主の日に救われるためです。」パウロの関心は、この男を悔い改めに導くことにあります。彼は罪を犯すことをやめ、教会の一員として、キリストの中にいること証していくことを学ぶ必要があるのです。私たちは皆、神の前に立っているのですから、これは重要なことです。パウロの関心は、サタンがその男を破滅に導くことではなく、神が彼を捕らえ、彼が悔い改め、神の前に立つ準備ができるようにすることなのです。クリスチャンは罪と無縁ではありません。聖書の中で最もすばらしい詩の1つが、ヨハネの手紙 第1章9節です。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」この句は、クリスチャンに対して書かれているのであって、未信者に対して書かれているわけではありません。問題は、この男が悔い改めようとしなかったことです。教会が教会規律、破門という極端な行動を取ることによって、彼の罪が神に対してどれほど深刻であることを示し、彼が変わり、悔い改めに導かれることを、パウロは期待しているのです。テモテへの手紙1章では、ヒメナイオとアレキサンダーという人物に対して、パウロが同じような指示を与えています。第一テモテへの手紙 1章 18-20節「私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言にしたがって、私はあなたにこの命令を委ねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と健全な良心を保ち、立派に戦い抜くためです。ある人たちは健全な良心を捨てて、信仰の破船にいました。その中には、ヒメナイオとアレクサンドロがいます。私は、神を冒瀆してはならないことを学ばせるため、彼らをサタンに引き渡しました。」パウロは、ヒメナイオとアレキサ

ンダーに神を冒瀆しないことを学んでほしかったのです。また、この近親相姦の罪を犯している男には、どんな手段を使ってでも、性的不道徳を犯さないことを学んでほしかったのです。教会が破門という厳しい教会規律を実施する時、それは報復のためではなく、悔い改めと教会への復帰を目的として実施されなければならないのです。ガラテア人への手紙6章1節をみてください。「兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」と書かれています。だからこそ、マタイによる福音書18章では、罪を犯した人が悔い改めるかどうか、まず、あまり公の場ではない場所で話してみて、それでも悔い改めないようであれば、最終的に教会全体の前でこの問題を議論するという方法をイエスは示しているのです。

最後に、クリスチャンはどのような場で、これらの行動をとるべきかという疑問に答えるために、パウロは9節から13節を付け加えています。「⁹ 私は前の手紙で、淫らな行いをする者たちと付き合いがないようにと書きました。¹⁰ それは、この世の淫らな者、貪欲な者、奪い取る者、偶像を拝む者と、いっさい付き合いがないようにという意味ではありません。そうだとしたら、この世から出て行かなければならないでしょう。¹¹ 私が今書いたのは、兄弟と呼ばれる者で、淫らな者、貪欲な者、偶像を拝む者、人をそしめる者、酒におぼれる者、奪い取る者がいたなら、そのような者とは付き合いはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。¹² 外部の人たちをさばくことは、私がすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。¹³ 外部の人たちは神がおさばきになります。「あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。」パウロがこの第一コリント人への手紙より前にコリントの人々に宛てて書いた手紙、神が聖書の中に残さないと決めた手紙の中で、どうやら性的に不道徳な行いをする人たちと付き合いがないようにと述べていたようなのです。パウロは、この男を排除する必要性を明らかにする過程で、罪人とどのように付き合うべきかという点を明らかにしています。クリスチャンは、聖書に反するような罪深い生き方をする人を教会から追い払うことはできませんし、そうすべきでもありません。しかし、破門し一切付き合いをやめるとするのは、自らをクリスチャンと呼び、教会の一員でありながら、罪深い不道徳な生活を続けている人にのみ適用されるのです。また、ここで問題にされているのは、性的な不道徳だけでなく、一般的にはそれほど悪いことだと思われておらず、目をつぶってしまうようなことも、問題視されているのです。たとえば、貪欲や酩酊のような罪もそうですし、また、偶像崇拜、暴言、つまり他人（おそらく配偶者）を罵倒すること、詐欺師などの罪も同様です。このような罪を犯している人に気づいたとき、私たちはそれを隠したり無視したりしてはいけません。そして、もしそれを犯している人が悔い改めることがなければ、パウロがここで述べているように、教会規律、破門を実施しなければなりません。なぜなら、深刻な罪を犯しているメンバーに対処しない場合、教会全体が神から裁かれる可能性があるからです。しかし、神はこの破門という教会規律が、最も重い罪にのみ適用されることを期待しておられるようです。多くの教会で、その基準に満たない罪で破門された人の例が見受けられます。しかし、このように軽微な罪で破門された例がたくさん見受けられるように、明らかに悔い改めずに公然と罪を犯している人を破門しなかった例もたくさん見受けられます。もし私たちが神の祝福を望むなら、キリストの兄弟姉妹と称する人々が神の求める基準を守れるよう、心が痛んでも、神の御言葉に従い、教会規律を実施するという決断をしなければならないのです。たとえそれが、私たちが大切にしている人を排除することを意味したとしてもです。不信仰なこの世の中に対して、教会が神の神聖さを証していくことができるかどうかは、私たちが神の御言葉に従順であるかにかかっているのです。では、祈りましょう。

1 Corinthians 5:1-13 The Necessity of Church Discipline

Today we begin a new section in 1 Corinthians starting in chapter 5. Chapters 5 and 6 are both connected around the issue of sexual immorality in the church. Today we will be covering all 13 verses of 1 Corinthians 5, but I hope to show the flow of Paul's thought over the next several sermons that begins here in chapter 5 but goes all the way through the end of chapter 6. Keep in mind as we begin this next section that disunity is the core problem, and each of the problems that Paul deals with in this book contribute to that disunity. Let's begin by reading 5:1-2, which introduces the next problem in the church. **5 It is actually reported that there is sexual immorality among you, and of a kind that is not tolerated even among pagans, for a man has his father's wife. 2 And you are arrogant! Ought you not rather to mourn? Let him who has done this be removed from among you.** Let's pray.

Let's make sure we understand exactly who Paul is talking to here. Paul is not addressing the man in sin. He never even addresses him once. These instructions are given to the church as a whole. This is important. Sin is not just an individual issue. My sin and your sin can affect the whole church, and some sin is so serious and public that if not repented of the church must deal with it. Paul is telling them in very direct terms to deal with this sin in the most severe way possible. He says in verse **2 Let him who has done this be removed from among you.** He doesn't say pray about it, debate it, or even pray for the man or approach him to see if he will repent. He says "Remove him!" So what is this sin that brings such reproach on the church that Paul gives them an unequivocal command to excommunicate or remove him as a member of the church. It was sexual immorality, which in general is having sexual relationship outside of marriage. But this was not just a man and woman having a sexual relationship without being married, this was **a man [who had] his father's wife.**

The way this is worded, this relationship was with his step mother, not a biological mother, but the Bible and Roman society of that day would still look at this as incest. And while Roman society of the time was generally okay with sex outside of marriage, adultery and even prostitution, incest was still considered outrageous and was a punishable act. So Paul points out that this was **a kind of activity that is not tolerated even among pagans.** More importantly than what society around them tolerated or condemned, the Old Testament which they held as their written scripture was clear in its condemnation of this sin. **Deuteronomy 27:20 says, "Cursed be anyone who lies with his father's wife..."** The problem here that Paul was addressing was not actually the sin of this man, though. As Paul, through the Holy Spirit will make clear in Chapter 6, this man is not saved, so he is acting like an unsaved person. Let's look ahead at 1 Corinthians 6: starting at the second part of verse **9 through verse 10. Do not be deceived: neither the sexually immoral, nor idolaters, nor adulterers, nor men who practice homosexuality, 10 nor thieves, nor the greedy, nor drunkards, nor revilers, nor swindlers will inherit the kingdom of God.** If a person is living in a persistent immoral lifestyle that shows no conviction and repentance, then the Bible says you do not have a part in the kingdom of God – you are not saved. The Christian will not and even cannot live that way without any conviction. That's why Paul continues in verse 11 of 1 Corinthians 6 by saying, **such were some of you.** It's in your past. Of course, we all battle ongoing sin, but for the believer that sin comes with conviction and guilt. Considering that even Paul knew of this man's sin, it was open and public, with no repentance. So, Paul was really not

addressing the man's sin, he was addressing the church's sin in tolerating it, while still taking pride in their identity as a church.

He says they were arrogant, when they should have been in mourning over this sin in their church. Sin should bring sadness to the body of Christ! To be fair, Paul is not saying that they are taking pride in the man's sin. No one is supporting this man's sinful lifestyle choice. But the arrogance was in their failure to deal with it. Perhaps he was a very prestigious man in the city, so they did not want to deal with him regarding the sin. Considering this seemed to be public knowledge and even Roman laws prohibited it, he may have had considerable influence in the local society. Maybe he was a big giver to the church. All of this meant that in some way the church, while not condoning his actions, may have taken pride in having him as a part of their church.

But Paul doesn't pull any punches here. He is direct and without any neutrality in his command. Look how he refers to him as we continue into verses 3-5. **3 For though absent in body, I am present in spirit; and as if present, I have already pronounced judgment on the one who did such a thing. 4 When you are assembled in the name of the Lord Jesus and my spirit is present, with the power of our Lord Jesus, 5 you are to deliver this man to Satan for the destruction of the flesh, so that his spirit may be saved in the day of the Lord.** If anyone could miss how seriously Paul felt about the need to remove this man from the church, he says even more forcefully, **"you are to deliver this man to Satan for the destruction of the flesh..."** He links the work of Satan in this man's life to physical suffering that he will endure. What exactly he means by this is not totally agreed upon. Some have proposed that Paul is saying that if the church excommunicates him, he is cursed and will die. That doesn't seem to be the best interpretation in line with Scripture. To hand someone over to Satan is to push him out of the church and turn him back over to Satan's sphere of influence, outside of the loving environment of the church where God is at work. Basically, he is metaphorically saying what he said specifically in verse 2, **"Let him be removed"** and later in verse 13, **"purge the evil person from among you."** In other words, exclude him from the community of faith. Can I just make one smaller point of application here? Without some aspect of a formal understanding of membership even at this point in the church, this idea of removing someone from the church makes no sense. There are many who argue for no official church membership, but without it, these passages on church discipline don't make a lot of sense. There must be something formal to remove someone from, more than just attending a group that is meeting. Membership, joining yourself to the local body of Christ is not an option for a Christian.

We also need to notice here that Paul is not afraid to use his authority as an Apostle to command them to take this action. This alone shows his seriousness about this situation. He is with them in Spirit, not supernaturally joining them in some out of body experience. But he is constantly focused on their well-being and this shows his continuing concern. But as tough as this language sounds here, Paul's focus has two parts. The first we've hinted at, but we really see in verses 6-8. **6 Your boasting is not good. Do you not know that a little leaven leavens the whole lump? 7 Cleanse out the old leaven that you may be a new lump, as you really are unleavened. For Christ, our Passover lamb, has been sacrificed. 8 Let us therefore celebrate the festival, not with the old leaven, the leaven of malice and evil, but with the unleavened bread of sincerity and truth.** Paul is using the idea of leaven to refer to sin in the Body of Christ. It only takes a little leaven, a little

rising agent in a lump of dough, to make a whole loaf of bread. A little sin not dealt with in the church affects the entire Body of Christ. He is using unleavened bread as a picture of holiness – being without sin. He says that unlike the one who proves by his actions that he is really a sinner and not a Christian, you **REALLY ARE unleavened!** Why is he using this illustration of bread? His follow up response that Christ, **our Passover lamb, has been sacrificed**, gives us the answer. The Jewish Passover feast is the reference here. Before Jewish families would observe the Passover which would involve killing and eating a lamb, they would remove all leavening agents such as yeast from their house and the bread they would eat with the meal would be unleavened bread.

This was commanded by God as part of the original Passover as the final plague on Egypt before Pharaoh allowed the Hebrews to leave the country under Moses. Hopefully, you know the event, any house that had the blood of the Passover lamb spread on the doorposts would be passed over by the angel of death and the first born son would be spared from dying. In houses with no blood, the first born son would die. There was a bigger point God was making than just the release of the people of Israel. God was painting a picture of the requirements for salvation. Holiness as demonstrated by the lack of leaven, and more importantly a holiness that only comes through something else shedding blood for the person in the home. In the case of the Passover, it was a lamb. That lamb pointed to the true Passover lamb – Jesus Christ. As with everything Paul has said in 1 Corinthians, everything in his life and church life comes down to Jesus Christ and him crucified. Being in Christ, accepting Jesus Christ as Lord and Savior means recognizing that he is our Passover lamb who died for our sin. We are then given Christ's holiness or righteousness. Paul talks about this imputation of holiness in [Romans 4:5](#). **And to the one who does not work but believes in him who justifies the ungodly, his faith is counted as righteousness.** To be a Christian means that you are sanctified, made holy, or in Paul's example here, **unleavened**. So, the church is supposed to be made up of people made holy through Jesus Christ, and so the church as whole should then be holy. Look back at [1 Corinthians 3:17](#). Referring to the church as a temple, Paul tells us, **For God's temple is holy, and you are that temple.** So, Paul's first focus is the damage done to the church through the sin. Paul is showing us that church discipline is not an action against an individual but an action taken by the church community to purge it from sin.

But there is a second individual focus as well. Notice how verse 5 ends. **...you are to deliver this man to Satan for the destruction of the flesh, so that his spirit may be saved in the day of the Lord.** Paul's focus is on leading this man to repentance. He needs to learn to stop sinning, and reflect the relationship of being in Christ that he claims to have by being part of the church. This is important, because we all stand before God. The goal is not for Satan to kill him, but for God to get a hold of him and bring him to repentance, so he can be prepared to stand before God. Christians are not immune to sin. One of the most wonderful verses in the Bible is in [1 John 1:9](#) which says, **9 If we confess our sins, he is faithful and just to forgive us our sins and to cleanse us from all unrighteousness.** That verse is written to Christians, not to unbelievers. The problem here was this man was unrepentant. By the church taking such extreme action, it would hopefully show him how serious his sin is to God and cause him to change- to repent. We see this same idea in 1 Timothy 1 where Paul basically gives the same instructions regarding a man named Hymenaeus and Alexander. [1 Timothy 1:19-20](#) says, **19 holding faith and a good conscience. By rejecting this, some have made shipwreck of**

their faith, 20 among whom are Hymenaeus and Alexander, whom I have handed over to Satan that they may learn not to blaspheme. Paul wanted those men to learn not to blaspheme and he wanted this incestuous man to be taught through whatever means necessary not to commit sexual immorality. The goal anytime a church must take this difficult action through Church Discipline must be repentance and restoration, not retribution. Look at Galatians 6:1 Brothers, if anyone is caught in any transgression, you who are spiritual should restore him in a spirit of gentleness. Keep watch on yourself, lest you too be tempted. This is why in Matthew 18, Jesus gives us a process of trying to talk to a person in sin to see if they repent with a less public confrontation, and only taking it before the entire church as the final step.

Finally, just in case there is any question about what sphere of society Christians should be taking these actions in, Paul adds verses 9-13. 9 I wrote to you in my letter not to associate with sexually immoral people— 10 not at all meaning the sexually immoral of this world, or the greedy and swindlers, or idolaters, since then you would need to go out of the world. 11 But now I am writing to you not to associate with anyone who bears the name of brother if he is guilty of sexual immorality or greed, or is an idolater, reviler, drunkard, or swindler—not even to eat with such a one. 12 For what have I to do with judging outsiders? Is it not those inside the church whom you are to judge? 13 God judges those outside. “Purge the evil person from among you.” Apparently, in a letter God did not see fit to preserve that Paul had previously written to the Corinthians, he had said not to associate with sexually immoral people. He is using the occasion of this man’s sin and the need for the church to remove him from the church to clarify that. Christians neither can nor should go around pushing people away whose sinful lifestyles go against the Bible. But, excommunication and not associating with someone is only applied to those who call themselves Christians and part of the church, but continue to live those same sinful immoral lifestyles. And notice it is not just immorality, but other things that are sometimes just winked at or not thought of as being too bad. Sins such as greed and drunkenness. Others such as practicing idolatry; reviler, which means being abusive towards others, perhaps a spouse; a swindler. When we become aware of those who sin in such ways, we don’t cover it up and ignore it. We confront it and if there is no repentance, we must practice church discipline as Paul describes here. We owe it to the church body as a whole, since failure to deal with a seriously sinning member invites the possibility of judgment from God on the whole group. It does seem that God expects church discipline to apply to only the most serious of sin. In many churches, you can find some pretty severe examples of discipline that did not meet that standard. But for every example of a church that improperly expelled someone, there are many others that fail to discipline those who are clearly living in unrepentant open sin. If we want God’s blessing, we must make the difficult but necessary choice to follow God’s Word and hold those who claim to be brothers and sisters in Christ to the clear standards of that Word, even if it means removing someone who we care about. The holiness of the church and the testimony of the church before an unbelieving world depends on our obedience to God’s Word, no matter how difficult that obedience is. Let’s pray.